

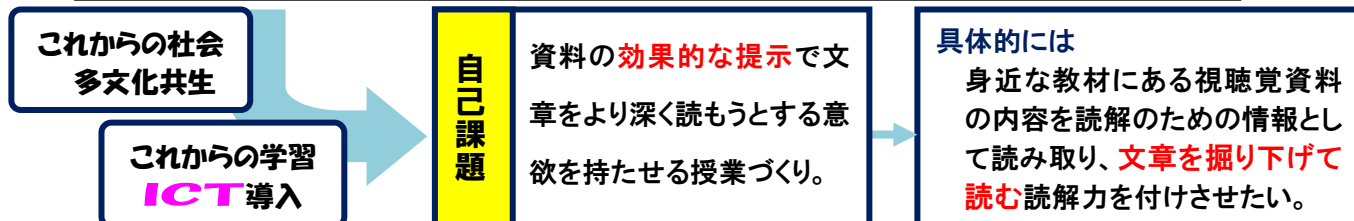
文章を掘り下げて読み、味わう、古典の読解指導の工夫

～「絵巻」や「挿絵」などの視聴覚資料の効果的な活用を通して～

高校国語班 長谷川正樹（高等学校教諭）

1 自己課題の設定と設定理由

今までの視聴覚資料を活用した自分の実践は、作業的になりがちだった。



2 自己課題解決策

(a) 実態の把握

生徒は、提示した視聴覚資料のどこを、どのように見るか、問答や短作文などを通して把握する。

(b) 教材研究の改善

教科書や副教材にある資料とテーマやモチーフが類似する資料を読み比べて、授業での読み取りの観点を絞る。

(c) 指導の具体化

視聴覚資料を活用した学習を単元ごとに加え、段階的、系統的な読み取りの学習を構想する。

3 授業実践から（展開を抜粋）

『伊勢物語』『芥川』を教材として、絵巻に描かれた男の動作、姿勢を手がかりに、「白玉か」の和歌にこめた男の心を読む。

時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
展開 (四十分)	〈1〉 なにかもが消えていくような文末表現の工夫を学ぶ。	・女の声が聞こえない、(鬼も)女もない、(泣いても)意味がない、という和歌が詠まれる直前の叙述が絵に描かれていないことに気付かせる。	・文末表現の工夫に関心をもとうとしている。 【関心・意欲・態度】 ・助詞の用法と意味および副詞の呼応について理解している。 【知識・理解】
	〈2〉 主語を補いながら正しく読み取る。	・副教材の設問で主語を補って読む古文読解の基本を理解させる。	・登場人物の言動を、正しく読んでいる。 【読む能力】
	〈3〉 和歌について、引用や比喻を用いて表現する男の内面を理解する。	・第五句の男の気持ちが、死を願う深刻な心理となることを、男の動作や、「露」のイメージから考えさせる。	・絵巻に描かれた男の動作や姿勢を根拠にして和歌にこめた男の心を読んでいる。 【読む能力】

4 成果と課題

成果	(1) 視聴覚資料を活用した学習の有効性 絵を見ることで発言が円滑になり思考が柔軟になることを、生徒の言動から確かめることができた。
	(2) 読み取りの観点を絞ることの有効性 動作や姿勢という分かりやすいところから男の心を読むことにしたことで発問が精選でき、簡潔な説明を望む生徒の思いに応えることができた。
課題	(1) ICTを活用した学習 プレゼンテーションソフトのアニメーション機能やプロジェクタの拡大機能を利用して、文法的説明を図示したり資料を提示する場面を絞ったりして、読解のおもしろさを味わえる学習を構想する。
	(2) 書くことの指導の工夫 人に分かるように表現する力が不足している生徒に対し、辞書(電子辞書も含める)の活用を視野に入れた書く力の向上を図る。
	(3) 授業形態の工夫 グループ学習で発言をより活発にし、作品の本質に迫れるような読み取りのさらなる深化をねらう。

担当指導主事 高校教育研究係 上原清司